演題名：修正CI療法，装具療法，電気刺激療法，Mirror Therapy を併用し，麻痺手を用いた生活行為獲得を目指した症例

Case studies using modified CI therapy, electrical stimulation, orthotics, and mirror therapy for paralyzed hands

所属名　周南リハビリテーション病院1)

氏名　○御書　正宏[1)]　山口　萌[1)]　中田　雄基[1)]　山根　巧雅[1)]

【はじめに】

脳卒中による麻痺手の改善においてCI療法は多くのエビデンスがあるが，病態によってCI療法の適応困難な症例も多い.今回手指伸展困難でＣＩ療法実施困難な片麻痺患者に対し，装具療法，電気刺激療法，ミラーセラピーを併用しながら修正CI療法を実践し，生活場面での工夫を通して麻痺手での生活行為の獲得が図れたためここに報告する．本報告に対して対象者に書面にて同意を得ている．

【症例紹介】

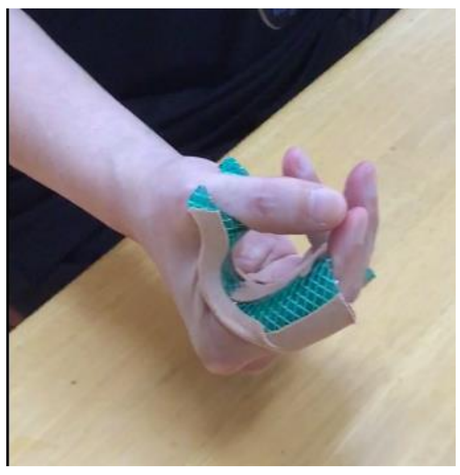
45歳男性,右利き．Ｘ年Ｙ月，脳梗塞にて右片麻痺を認め入院．8病日後に自宅退院し外来リハビリテーションを利用していたが，麻痺手の回復をあきらめきれず集中的なリハビリ希望のため92病日に当院回復期病棟へ入院．麻痺手の状態として物品の把持や操作を繰り返すと徐々に手指の痙縮が高くなり,手指伸展,物品把持困難な状態．Motor Activity Log(MAL)ではAmount of use(AOU)2.5点，Quality of Movement(QOM)2.1点と日常生活で麻痺手の使用頻度は低下していた．認知機能はMMSE：30点,ADLはFIM：121点であった．

【介入方法】

麻痺手の使用目標(ADOC-Hpaper版を使用)

目標に挙げた行為を想定したShaping課題,Task practice課題．Transfer Package(TP)：麻痺手使用の行動契約を口頭にて同意を得る．麻痺手の使用について毎日モニタリング．使用状況を口頭で確認．

修正ＣＩ療法

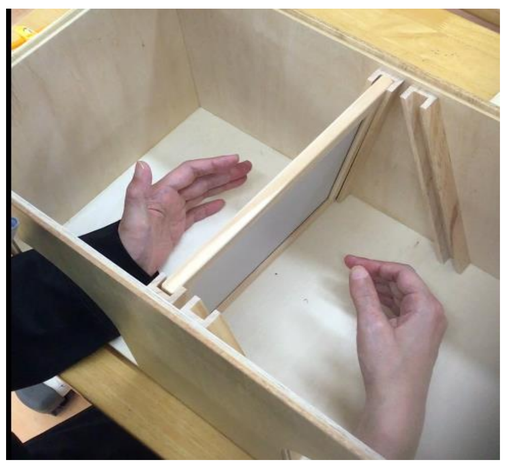


主治医に相談・指示の下症例に合わせて手指短対立装具を作成．セラピストの監視下で課題志向型練習時と併用

装具療法

ＩＶＥＳのＦＥＥ電極を使用．随意運動の意図に合わせた運動閾値の刺激を実施．課題志向型練習と併用して手指伸筋群へ持続的な刺激を入れながら物品把持練習．

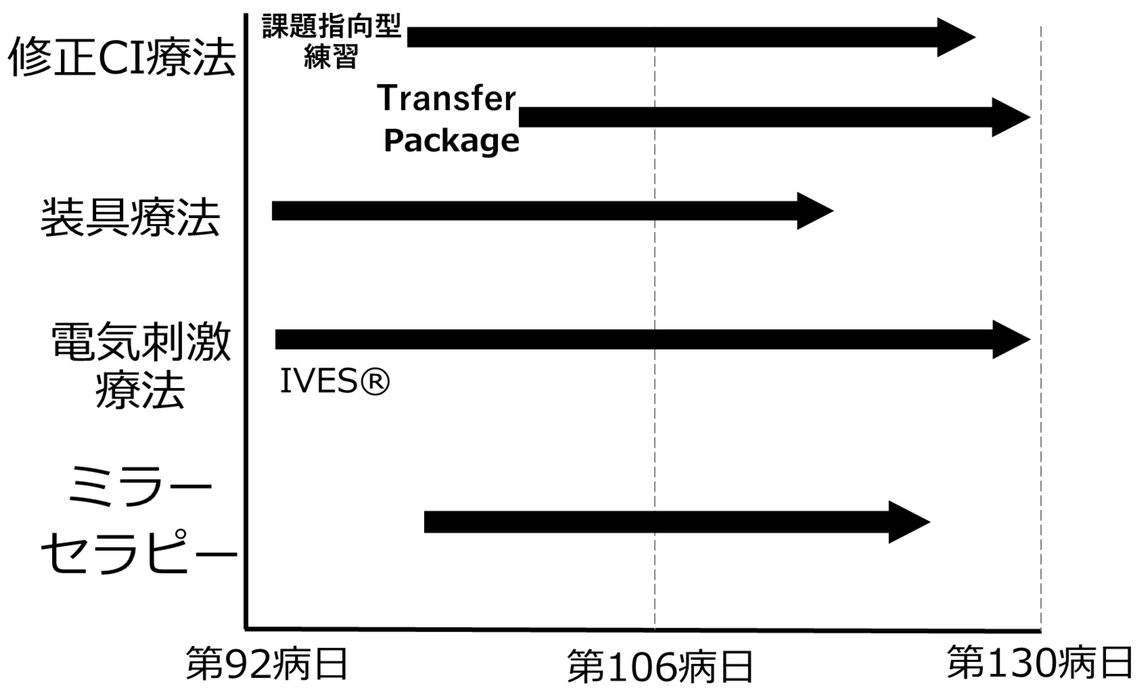
電気刺激療法



ミラーボックスを使用鏡に映し出された手指を見ながら手指の伸展運動を10回1セット，15分程課題志向型練習の前に行った．

ミラーセラピー

【介入経過】



【結果】

上肢機能のアウトカム	入院時(第92病日)	第106病日	第130病日
Fugl-Meyer Assessment(FMA)	45	56	60
Action Research Arm Test(ARAT)	55	55	56
Motor Activity Log(MAL)：Amount of Use(AOU)	2.5	2.6	**3.1**
Motor Activity Log：Quality of Movement(QOM)	2.1	3.0	**3.3**
Modified Ashworth Scale(MAS)	2	2	1
簡易上肢機能検査(STEF)：右	14	18	**51**

【考察】

手指の痙縮により修正CI療法の実践が困難であったが，複数のアプローチを併用していくことで，FMA-U，MALのAOU，QOMで臨床上意味のある最小変化量(MCID)を超える改善を示した．麻痺手を用いた生活行為の獲得を図る為，複数の治療法を組み合わせて使用していくことは麻痺手の改善に有用である．

第57回日本作業療法学会　COI 開示　筆頭発表者名：御書　正宏
演題発表に関連し、開示すべきCO Ｉ関係にある企業等はありません。